

## 支所長よりひとこと

ニアメは曇りや雨が降る日も少し増えてきていて、相変わらず日中は暑く停電も頻繁ですが確実に雨期に向け移行している感じで、タバスキも話題に上っているこの頃です。

先日、2階の会議室の床が雨漏りで水浸しになっているのを帰りがけに発見し、1階の会議室の天井からも1分間に2滴の雨漏りが。確か昨年、屋上の防水修理をしたはずなのだが…。至急修理のおっちゃんを呼んで原因を調べさせると立て板に水でいろいろ解説してくれるが、わかっているならなんで昨年の修理の時に対処しておかないのか!!と思うものの、お馴染みの言い訳に突っ込む気もおきない。

さて、「農業普及システム改善プロジェクト(PASVA)」の合同調整委員会が久しぶりに農業省次官出席のもと開催された。これまでの成果の報告や今後の計画が提案され、活発に質問・議論され合意された。専門家の皆さんお疲れ様でした。

そのなか、ニアメのサイトの成果プレゼンの末尾、「Merci de votre aimable attention」(ご静聴くださりどうもありがとうございました)のパワポの写真に私は思わずノケゾった。

「こ、これは…?!」



タクシーに乗ったラクダが「じゃあ、ちょっと行ってくるけど」と友人の少年に言っていると思われる?写真。ラクダがタクシーに乗るほど急ぐことがあったとは!ニジェル恐るべし。

これはプロジェクトとどう関係しているのか、ラクダはどこへ行こうとしていたのか、喉まで質問が出かかったが、すぐに次の画面に移り機会を逸した。

最近、ロンポワンで信号待ちしている前をラクダが2頭おっとり顔でトラックの荷台に乗せられていくのを目撃。朝晩送ってくれる運転手に聞くと家畜市場に連れていくところだろうと言う。1頭35万FCFA(約7万円)ぐらいらしい。買えない額でもないのでラクダの所有者になったことを想像してみたら複雑な気持ちになった。ニアメの街中では巨大な藁のシートを何枚も背負ってゆったり引かれているラクダをよく見るが暑いのに大変だなあと感心する。

雨が降り始めると気になるのがニジェル川の水位。昨年9月の洪水被害は例年になく大きいものだったが、写真は7月3日の様子。まだ特に水位上昇は見られない。今のうちにと対岸の大学病院方面の堤防の補強工事が進められており、間に合うよう頑張ってもらいたい。



2021年7月3日

ひとつご報告ですが、ニジェル外務協力省から新たに東京の名誉領事に任命されたイロ・カザ・イブラヒム氏が6月下旬支所にみえました。日本とニジェールの架け橋として関係を深めたいと述べ以前のようにニジェルへのビザの発給にも意欲を持っておられたので期待しています。



ご意見・お便りはこちら！ [ni\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ni_oso_rep@jica.go.jp)  
過去の支所便りは[こちら](#)もしくは右の QR コードから  
編集長：小畑支所長 / 編集・デザイン：山本企画調査員



## 初ニジェール出張

今から一か月半前の5月15日(土)午後、ニアメのディオリ・アマニド・ニアメ空港に到着しました。冷房が強めに効いた空港の建物から外に出ると、暑さに全身を包み込まれて汗が一気に噴き出し、照り付ける日差しは痛いくらいでした。砂漠の国に来たという実感でした。

ニアメに到着するまでの機内からは、延々と続く砂漠と、その中に時折ぽつん、ぽつんと集落が見えました。

あの集落の人達は何を糧に生活しているのだろうかという疑問が湧いてきました。そして、いつまで経っても続く砂漠に、この国で農業が成立するのだろうかという気持ちになりました。

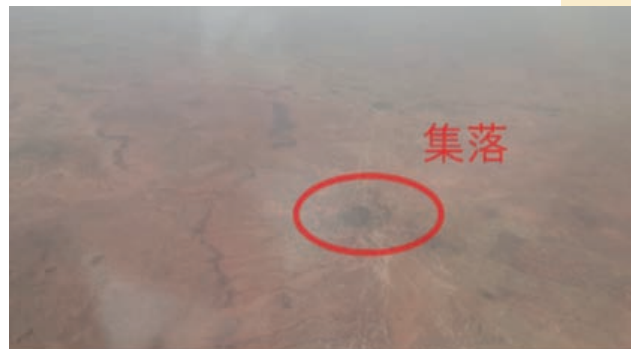
今回は初めてのニジェール出張で、1週間の隔離期間を入れて53日間、ニアメに滞在しましたが、到着当初はいろいろな驚きがありました。この驚きを忘れないように記録しておこうと思い、今回ここで報告させていただきました。どれも、既に私の中でも日常化してしまいました。

まず、空港からホテルへ向かう途中に寄ったスーパーマーケットで最初の驚きがありました。チョコレートが冷蔵庫の中で売られていました。店内は暑いので溶けてしまうのでしょうか。

ホテルに着いて、ようやくインターネットをつないで天気予報を確認すると、最高気温43℃、最低気温30℃。暑い国だと数字で再認識しつつ、いつもの癖でお湯がちゃんと出るか確認のために、バスルームの蛇口をひねりました。どちらの蛇口をひねってもお湯が出てきて、冷たい水が出てきません。しばらくしたらどちらかは温度が下がるかなと思いましたが、お湯の蛇口の方が熱くなるだけでした。結局、水の方でシャワーを浴びましたが、最後まで温かいままでした。

それから夕立ならぬ砂嵐に驚かされながら一週間の隔離を経て初出勤の日、初めて見る街並みにも不思議な光景いくつかありました。

最近できたというモダンでお洒落な国際会議場、でも、名前がマハトマ・ガンジー？インドの支援でたてられたのでしょうか？



砂漠の中の集落



冷蔵庫に陳列されるチョコレート達



マハトマ・ガンジー国際会議場  
(庭にはガンジーの銅像もあります)

また、ロータリーの脇の公園には巨大なワニの像が。これも最近できたもののようですが、タイトルは「砂漠のワニ」でしょうか。

事務所の外壁に黄色と白とグレーのトカゲを見つけて、写真を撮ろうと思い、スマホを片手に近づいていくと、素早く柱の裏側に逃げ込みました。柱の裏側にゆっくり回り込むと、柱の裏側にはいませんでした。あれっ?と思うと、反対側でカサカサッと音がして屋根の上に逃げていく尻尾が見えました。なかなか素早く、結局写真は近くで撮れませんでした。あそこまで素早い爬虫類を見たのは初めてでした。

お昼にレストランへ行くと、料理と一緒にビニールパックの水が出てきました。他の国にも普通にありそうですが、私は初めて見たので少し驚きました。また飲みかけを上手に机の上に立てて置いているのにも感心しました。

水分補給で思い出しましたが、これは偶然なのかもしれませんが、今回一緒に現地入りした2名の団員は常に水筒を持っていました。ちなみにカウンターパートの女性も持ち歩いていたので、もしかしたらこれもニジェルではスタンダードなのかもしれないと思ってここに載せました。

私もこの暑さに影響され、買い物に行くについつい必要以上に水分を買っていました。冷蔵庫には、常に、水、フルーツジュース2種類以上、炭酸飲料2種類以上、牛乳が入っていました。途中からビスップも加わりました。

次は半分以上、私の個人的な興味の話ですが、環境省へ打ち合わせに行った時にみつけたキリンの頭部と足だけのはく製、壁から生えていました。なぜ、顔と足だけなのかは不明ですが、キリンの他にカバと思われるものもありました。

最後の方は少し強引な感じになりましたが、私なりに今回の出張での驚きをまとめてみました。振り返ればこれまで比較的寒い地域での活動が多かったため、この暑いニジェルで新鮮な驚きをいくつも感じられたのかもしれない。そんなニジェルも6月中旬頃には雨が降る日があり、雨季に向かっているのを感じました。その頃になると、40℃を超える日も少なくなっていきました。次回の出張は10月頃を予定しています。雨季明けのまた違った顔のニジェルを見れることを楽しみにしております。

(PASVA 森永太一 専門家)



砂漠のワニ



打合せ時のテーブルにも水筒



ある日の冷蔵庫内



頭と足だけのキリン

支所便り2016年7月号から不定期でお届けしている、京都大学アフリカ地域研究資料センター・大山修一教授の「ニジェールでゴミを集める日本人」シリーズ第31話。今回は先月号に引き続き、知られざるシロアリの世界について寄稿いただきました。

前月号の支所便りでは、ニジェールの地中を支配し、活躍している生物はシロアリであることを説明しました。今年は関西地方の梅雨入りは5月16日と、平年にくらべて3週間も早かったのですが、日本で梅雨入りする6月上旬ころから、ニジェールにおいても雨が降りはじめます。蒸し暑く、湿気を含んだ重い空気に不快指数はおのずと高まるのですが、しっかりと雨が降り、地面が冷やされると、過ごしやすくなります。

ニジェールで雨が降り出すと、夕暮れどきに、シロアリの群飛がみられるようになります。ニアメ市内でも、郊外の農村でも、地中の巣穴から無数の羽アリが地上に現れ、空へむけて飛び出していきます。この羽アリにはオスとメスがあり、女王アリと王様アリの候補です。羽アリが出てくる巣穴の周囲には大勢の働きアリや兵隊アリが群がっており、敵の襲撃にそなえて厳重に警護するとともに、新しい女王と王様アリの門出を祝っているようにも見えます。



巣穴から飛び出していく羽アリ——働きアリや兵隊アリの護衛を受けます。

群飛をすることで、女王アリと王様アリはペアとなり、地面に着地すると、羽を落とし、地面を掘って地中に入れるような場所を探します。そして、2匹は地中に姿を消し

て子を産み、コロニーを作っていきます。運悪く、固い岩盤のうえに落下してしまうと、ペアの2匹はさまよいつづけ、地面を掘って地中に入れないこともあります。また、クロアリに捕まって、餌として引きずられていく、ざんねんなペアもいます。農村の内部やその周辺では、飼育されているニワトリとホロホロ鳥が忙しく、着地した羽アリをついばんでいることもあります。とてもシビアで、残酷な世界です。



砂漠化の進んだ固い岩盤——砂漠化の影響は人間だけでなく、シロアリにも影響を及ぼします。固い岩盤では、羽シロアリは地中にもぐることはできないし、近隣に餌となる植物バイオマスも少ない。

緑化を目的として、荒廃地にゴミを投入するタイミングは一年中、いつでもよいのですが、ニジェールでは乾季が8か月ほど続くことには注意が必要です。ゴミを投入しても、乾季のあいだには大きな変化はなく、水がなければ緑化が進むことはありません。すばやく緑化の成果を上げたいのであれば、実は、羽アリが群飛する前までにゴミの投入を終えておくことが重要です。

農村の住民のなかには、荒廃地を畑に転換しようとするとき、ゴミをちょっとだけ、気まぐれのように置いておく人がいます。手元にゴミがなく、多大な労力をかけることもできないため、全面に大量のゴミをまくことができないという農村に住む人々の事情もあるのですが、住民は土壌を改善するシロアリの重要性を心得ていて、群飛で飛んでくるシロアリを誘引するのです。毎年、すこしずつゴミを投入し、シロアリの力を借りて、耕作地の土壌改善をつづけていきますが、耕作地を拡大するという目的を達成できず、気まぐれのまま終わってしまうことも多いのです。



広大な荒廃地に投入されたゴミ——畑に転換するにはゴミの量は不足しますが、羽アリの誘引と定着をうながすには、まずは十分です。

ペアになった羽アリがゴミに定着すれば、荒廃地の固い岩盤は農業に適した土壌に変化します。シロアリはみずからの唾液を使って、粒子の大きい砂や、細かなシルトや粘土の粒子をつなぎあわせ、植物の枝やわら、葉などを包むように、シェルターをつくっていきます。ちょっとした衝撃や雨粒によって、このシェルターは簡単に壊れてしましますが、土壌の粒子がゆるやかに結合し、空隙の多い団粒構造が形成されます。この団粒構造ができれば、空隙が空気や水を含むので、植物の根は伸張しやすくなります。



荒廃地に捨てられたヤシ繊維のロープーシロアリのシェルターに包まれていく。

雨季の直前までに荒廃地にゴミを投入しておく、広大な荒廃地であっても、シロアリの群飛があり、女王アリと王様アリがペアになってゴミに定着したのち、働きアリによって土壌の団粒構造が形成され、植物が生育する土台を作り出すのです。シロアリは、みずからの食料源となる植物の生育を促しているともいえます。

7月になって雨が本格的に降り出し、住民たちがその土壌にトウジンビエの種子を播種すれば、10月中旬には収穫し、食料とすることもできます。雨季が到来するまえにゴミを荒廃地に投入し、シロアリの女王様と王様に「愛の巣」の材料を準備しておくことが、ニジェールにおける緑化の第一歩となるのです。



「愛の巣」の盛り上がり——緑化実験ではゴミを投入して2年(2回の雨季)が経過するとシロアリ塚は直径230cm、高さ65cmに成長しました(2010年8月)

## 今月の支所活動：遠隔研修の成功に向けて

JICAは日本が有する知識や経験を通じて開発途上国が抱える課題解決に資するよう、日本国内の多くの関係団体と連携した研修を企画しています。本来であれば、研修員は来日して実際に自身の目で現場を見て、対面で質問を行い、他国の研修員と情報交換を行い、様々な経験を経て帰国しますが、新型コロナウイルスの感染拡大により、現在はその多くが遠隔に切り替わっております。

当支所では、昨年度と合わせて既に14コースが終了し、本日(7月12日時点)では3コースが行われております。今月号は、私たちがこれまで直面した課題と、参加者がより良い環境で集中するために行った試みをご紹介します。

### 1. とにもかくにもネット環境

遠隔研修の際には、自宅や所属先からの参加ではなく、出来るだけ支所に来てもらうようお願いしています。ニジェールは近年首都を中心に目覚ましいネット環境整備が行われてきましたが、まだまだその接続環境は安定しているとはいえず、公務員でさえも毎日ネットに触れる人は少ない状況です。また回線が細く、会議中に途切れてしまうこともしばしば。そういった背景もあり、基本的には支所に来てもらい、支所が保有するルーターで接続を行っています。ルーターは2-3社分を所持し、回線速度を確かめながら、その日に最も調子のよい会社を選択しています。

### 2. セッティング技術者になる

研修に参加する人のほとんどがzoomって何?という状況のため、研修初日には少し早めに来てもらい、基本操作説明を行います。持ち込んで来られたPCに対して、Wi-fiの繋げ方からzoomのダウンロード、Googleクラスルームの操作方法まで、幅広いサポートを行います。新しいアプリの操作方法はなかなかアレルギーがあるのかなと思いきや、参加者の皆さんは新しい技術を学ぶことに意欲的のため、一緒に試行錯誤しながらセッティングします。音が出なかったりカメラの調子が悪い時には、最終手段として支所が保有する研修員用PCやタブレットを貸し出し、まずはスムーズに初回を乗り越えることを目指しています。

### 3. 研修に飛び入り参加する

当支所はもともとJICA海外協力隊のドミトリーの機能もあったため、数多くの会議室があります。最大6人が個室を使用することができますが、国内拠点から事前にスケジュール表を共有してもらい、興味のある単元や行動計画発表などでは、支所長やナショナルスタッフも研修員の隣に座ります。これまで日本で行ってきた研修を私たちも受講できるチャンスと捉えております。研修員とも関係性を深め、研修終了後にはもう少し詳しい話を聞いたり、何かフォローアップできるか考えます。また、JICAオリジナルノートとマスクを配布し、所属先で使用してもらうことでJICAの広報にも一役買ってきております。

コロナ禍という難しい局面ではありますが、ピンチはチャンスと捉え、これからも参加者が快適な環境で研修を受けられるよう、より柔軟な対応を心掛けたいと思います。(企画調査員 山本 主税)



オリジナルノート



修了証書授与式の様子



巻末連載企画！「ODのヒヤリハット」ですが、今月号は担当のODさんが休暇中のため、お休みです。しかし！毎月楽しみにしたのに…と肩を落とした読者の皆さん、どうかご安心ください。今月号は巻末特別企画として、これから始まる東京2020オリンピックのニジェール選手団をご紹介します！テレビでニジェール選手をみんなで応援しましょう！

## オリンピック ニジェールの代表団 7名の氏名と出場競技

氏名(アルファベット)	氏名(カタカナ)	出場競技
Abdoulrazak Issoufou Alfaga	アブドゥルラザック イスフ アルファガ	テコンドー (男子)
Tekiath Ben Toussef	テキヤットゥ ベン ユセフ	テコンドー (女子)
Ismael Alassane	イスマエル アラサン	柔道 (男子 66kg級)
Amina Seyni	アミナ セイニ	陸上 (女子 200m/400m)
Badamassi Sanguirou	バダマッシ サンギユイル	陸上 (男子 200m/400m)
Alassane Seydou Lancina	アラサン セイドゥ ランシナ	水泳 (男子 自由形50m/100m)
Roukaya Moussa Mahamane	ルカヤ ムッサ マハマン	水泳 (女子 自由形50m/100m)

### 注目はやはりテコンドー。アルファガ選手とユセフ選手

アルファガ選手は2001年よりテコンドー選手の従兄弟の影響を受けてテコンドーを開始。その後、トーゴやベナンでのクラブに参加し、破竹の勢いで金メダルを積み重ねていきました。09年にニジェールに帰国後も全国チャンピオンに幾度となく輝き、15年にはテコンドー連盟より「国内大会には参加せずに、国際大会に専念するように」とアドバイスを受けるほど敵なしの状態に。これまでアメリカで行われた国際大会にも優勝し、今年セネガルの大会で優勝するなどコンディションも良好。実際に会ったことのある支所スタッフによると、「彼はとても静かで、驕ることなく、人々に対してとても敬意を払っている。まるで日本人のようだ」とのこと。女子の部で出場するユセフ選手もアフリカチャンピオンに君臨しており、両選手の活躍に目が離せません。

### 柔道66kgにも注目！

26歳の黒帯アラサン選手はニジェールで3番目のメダル候補です。数々の世界柔道選手権にも出場し、2018年のカメルーンで行われたヤウンデオープンでは銅メダルを獲得しました。ニアメ市内には多数の柔道クラブがあり、アラサン選手も「サムライ柔道クラブ」というクラブで柔道を始めました。支所スタッフによると「一家に一人は柔道かテコンドーを習っていると思われるほど、みんな好き。ここでは畳がないため、土やコンクリートの上に投げられ、柔道着も「キモノ」という名前だ」とのこと。色々心配になる部分もありますが、この競技に日本代表として出場する阿部一二三選手との対決が実現したら、どちらを応援しようか今からドキドキしております。

なお、ニジェールの大統領が出席した壮行会の様子は[こちら](#) (aniameyウェブページ) からご覧いただけます。伝統衣装に身を包んだ7名の選手を是非ご覧ください。パラリンピックでは3名の選手が出場予定です。詳細が判明し次第、またどこかでご紹介できればと思いますので、お楽しみに。(企画調査員 山本 主税)